

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果表

作成日：平成21年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2872001595		
法人名	社会福祉法人姫路文化福祉会		
事業所名	グループホームブーフーウー		
所在地	(〒 674-0094) 兵庫県明石市二見町西二見1606 電話 078-945-0701		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年10月15日

【情報提供票より】〔平成21年8月26日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	19人	(常勤11人) (非常勤8人)	/ 常勤換算14.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000～54,000円	その他の経費(月額)	33,000円	
敷金の有・無	無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円)	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または、1日あたり		円	

(4) 利用者の概要 (平成21年8月26日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性7名) (女性11名)		
要介護1	7名	要介護2	4名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均83歳 … (最低73歳) (最高93歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明石回生病院、清水クリニック、川畑歯科医院、吉田皮膚科
---------	-----------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山陽電鉄「西二見駅」から徒歩5分、車利用では西明石インターから3分と、訪問に際しては交通の便利が良い場所に在る。建物の外観イメージは、童話「3匹のこぶた」のレンガの家。職員は“安全と安心”を基本に、理念に沿ったサービス提供に努めている。同一敷地内には、同法人が運営する特別養護老人ホームと保育園が併設されている。ホームは1～2階が居室、3階が露天風呂(季節使用)と回廊庭になっており、隣地の保育園へと繋がっている。高齢の方と子ども達が共生する“コミュニティー”が形成されており、日常生活の中で、世代間交流が当たり前実践されている。また、法人全体で多数の実習生(市職員・教育実習・介護実習・職場体験・ボランティア等)の受入れをしており、地域の社会資源として知識貢献にも努めている。

nasereteiru.

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①全職員で取り組み地域密着型サービスとして相応しい新しい理念を作りあげた。②H21. 8月に第1回目の運営推進会議を開催した。③市職員の研修の受け入れ等、積極的に連携している。④家族(食事会)を年4回開催し、家族が意見を表出できる機会を設けている。⑤同法人内での合同研修会、ホーム内研修、外部研修等、職員研修の機会を多く設けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	各フロアの主任がまとめたものを、管理者がまとめた。次回からは、更に、前職員での取り組みにしていく予定。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	H21. 8月に家族代表・地域代表・職員が参加のもと第1回目の運営推進会議を開催した。運営推進会議の目的、ホームの状況について説明・報告するとともに質疑応答の時間を設けて、意見交換をした。会議を通して、地域の方が風車づくりのボランティアとして月1回程度訪問して頂けることになった。家族からは、地域のイベントの情報提供があり、参加を検討している。現在、定期的な開催(21年10月開催予定)に向けて進捗中。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	毎月、家族に手書きのお便りを作成し、利用者の日々の暮らしぶりについて個別に報告をしている。ホームからのお知らせや外出の様子(写真)は「スマイル×2 ニュース」に掲載して送付している。年4回の家族交流会を実施し、家族が意見を表出しやすい雰囲気づくりをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目④	ホーム近隣には民家が少なく、立地面では地域交流が難しい環境にあるが、最も近い自治会に加入して地域の方と交流できる方策を検討している。近隣のスーパーや飲食店とは、利用者が気持ちよく利用できるように連携してもらっている。ホームは、小・中・高・大学生・専門学生の実習等を積極的に受け入れ高齢の方と子どもたち、若い世代の方が行き交う環境づくりに努めている。

2. 第三者評価結果表

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、意見を出し合い理念を構築した。日々の利用者への支援(大切にしたいこと等)や地域との関係性を重視し、「私たちは、一人ひとりと向き合い・寄り添い・生きいきと暮らせるホームを目指し、地域とのふれ合いを大切にします。」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々のケアの中で意識し、利用者一人ひとりが暮らしの中での持てる力を活かした役割を持ち続けることができるように支援している。地域との関係性としては、社会資源の一つとしての積極的な知識還元活動(研修の受入)やホーム行事への招待、地域行事への参加等に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	園児や特別養護老人ホームの利用者と日常的に交流している。保護者とは、園児の送迎時に挨拶を交わしたり、併設施設との合同夏祭りでは、地域の方や専門学生と交流している。地域ボランティア(大正琴・紙芝居・手品・踊り等)や県立農業高校の園芸科の学生の訪問も予定されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果の改善項目については、評価を活かし改善に向けて職員全員で取り組んでいる。今後は、家族にサービス評価の意義を理解してもらえるよう、評価結果を家族全員に送付することを予定している。	○	家族への結果報告書の送付と評価結果の玄関掲示とともに、インターネットでのサービス評価の閲覧方法の案内(説明文書作成)もされてはどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議を開催(21年8月)した。次回開催予定は(21年10月)。2カ月に1度の定期的な開催に向けて努めている。更に地域の理解と支援を得るように地域の方々へのお呼びかけを拡げている。前回の会議を通じて、ボランティア訪問に繋がった。	○	家族交流会等を利用して、運営推進会議の意義について、再度、説明する機会を設けて頂きたい。また、家族にも運営推進会議の議事録を作成し報告をするのが望ましい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の研修の受け入れや、2市2町グループホーム連絡会で市町と連携している。現在、共用型通所介護サービスの開設に向けて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「スマイル×2ニュース」にて、ホーム行事や職員異動について報告するとともに、個別の手紙にて、利用者の様子を報告している。また、電話、訪問時等を利用して暮らしぶり、健康状態などについての報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内と外部の苦情相談の窓口を明示している。家族が気軽に意見や要望を表出できるような雰囲気づくりを心掛けている。家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるような体制を検討している。	○	家族と意見交換ができる機会として、家族向け学習会の開催も検討されてはどうか。また、併設施設で開催している地域向け学習会を家族にも案内してみてもは如何でしょうか。 家族と職員との馴染みの関係づくり(職員写真の掲示等)の工夫も検討してみてもはと思う。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、常に、職員の意見や提案を聴くように努めている。会議等でも活発に意見交換をしている。現在は職員の異動や離職は殆どない。休日の希望及び緊急に休みが必要な際にでも交代ができる柔軟な勤務体制をとる等、働きやすい職場づくりを意識して、離職を防止している。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修の他、外部講師を招いての法人全体研修や関連学校法人での研修等も積極的に参加できる機会を確保している。(併設施設の看護師による急変時等を含めた勉強会にも全職員が参加している)。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町のグループホーム連絡会をはじめ、兵庫県宅老所・グループホーム連絡協議会、全国宅老所・グループホーム協会の研修会に参加している。同業者と交流する機会を通じて、サービスの質の向上に努めている。「西播磨の介護をよくする会」や「NPO法人つどい場さくらちゃん」の勉強会等にも参加することで、ネットワークづくりへの取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にホームに見学に来て頂き、安心して入居して頂けるように支援している。入居当初は、安心感をもってもらえるように家族に訪問をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の笑顔や職員への労りの言葉に日々励まされている。毎日の日課として、「ずんどこ節」や「炭鉱節」を一緒に歌いながら、廊下を一緒に歩いて、コミュニケーションをとっている。家事等を手伝って頂いた時は、必ず、感謝の言葉を伝えている。また、ホームでは犬を飼っており、家族の一員として一緒に生活をして利用者の心を和ませている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から情報収集をおこない、一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、得意な料理、手芸などの趣味や自信の持てるものを見出し楽しめるように支援している。	○	更に、利用者の意向を把握するために、個別の会話時間を設け、その記録を取り、介護計画に反映させては如何でしょう。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの「できること」「したいこと」などのチェック表を作り有する能力の把握に努めている。個別記録には、食事量、バイタル、暮らしの様子などを記録している。介護計画を作成するための3ヶ月ごとのモニタリング表が作成されているが介護計画書と同一になっている。	○	本人・家族の意向を含め、実現可能な目標を掲げた「個別介護計画」を単独で作成するのが望ましい。インフォーマルサービス(ボランティアや併設施設の行事参加等)や家族の支援も介護計画に組み込まれてはどうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、体調変化や状態変化があった場合は、現状に即した介護計画を立案し実施しているが、計画書の書式に検討が必要である。	○	ADL及びIADLの変化や日常のケア記録をもとに、本人・家族・必要な関係者との話し合いを持ち「介護計画」の見直しをし、新たな計画書を作成されることが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の合同夏祭りや併設保育園の盆踊り、こどもの日、七夕等の行事への参加等、利用者の楽しみごとが多い。希望により、パンの訪問販売や訪問美容サービスを利用してもらっている。医療については、併設している施設の看護師に24時間相談できる体制を確保している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望や状況に応じて、かかりつけ医や専門病院への受診支援等を柔軟に対応し、家族の負担の軽減を図るようにしている。家族の希望により、内科・歯科・皮膚科の往診を受けてもらえるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合は、出来るだけ早い段階で、利用者や家族、職員全員で話し合う場を持ち、医師の意見を踏まえつつ、今後のケア方針を決定している。看取りについては、家族の協力のもと実践している。重度化した場合や終末期のあり方については、指針を作成し共有している。家族が希望された場合は、ホームに泊まって頂くこともできる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	フロア会議等で職員の意識向上を図り、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの好む暮らし方や生活歴を尊重し、自由に過ごして頂けるように支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、持てる力を活かしてもらい、調理から後片付けまで協働して行っている。職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。農園で協働して育てた野菜が食卓にあがることも楽しみの一つになっている。また、中庭やウッドデッキを利用してお茶を飲んだり、バーベキューパーティーも実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には時間帯を決めて入浴してもらっているが、状況に応じて時間に関係なく入浴して頂くことがある。夏場は3階の露天風呂で温泉気分を楽しんでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から生活歴や好きなことを聴取している。利用者一人ひとりが役割を持ち、生き生き暮らせるように支援している。梅干、七夕のこより作りなど利用者の経験や知恵を活かせるように支援している。農園で野菜を協働して育て、収穫することも生活リハビリの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設施設の専用バスを利用して、買物や外食の支援を行っている。花見や神戸花鳥園、須磨水族館、稲美町花火大会、菊花展、観梅会等・ほぼ毎月外出を楽しめるように支援している。また、ホーム建物周りを自由に散歩したり、花や野菜の水やり等してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、建物の構造上、玄関部分が死角となってしまうため、やむえず施錠している。1階のホーム外周への出入り口や2階のウッドデッキへ出入り口は、開放している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の消防・防災委員会に出席し、併施設全体としての防災対策について、応援体制等を協議している。ホームとしては、定期的に消防訓練を実施し、職員間の防災意識を高めるため消防自主検査チェック表を各フロア単位で行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を毎日チェックし記録し、目標として一日に約1500ccの水分摂取ができるように支援している。医師からの指示のある方については、水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、吹き抜けがあり明るく開放感がある。壁面には季節感のある飾り付けをし、中庭やウッドデッキには、季節の花や実のなる木を植えることで、季節を感じてもらえるようにしている。仲のよい利用者同士がおしゃべりできるスペースやくつろげる置スペースを設け、好きな場所で過ごせるように支援している。トイレには、ファンレストテーブルを設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口扉には表札をかけ、使用される家具等は、出来る限り馴染みのある物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。		

※  は、重点項目。